

最優秀団体賞 弓道部 スピードスケート部

第61回体育会表彰式 初の2団体受賞

20団体・96人を表彰

第61回体育会表彰式が3月18日、生田キャンパスで開かれ、2021年度に輝かしい活躍を見せた20団体、96人(重複含む)が表彰された。最優秀団体賞には弓道部とスピードスケート部が選ばれ、初めて2団体が受賞した。



最優秀団体賞を受賞した弓道部、スピードスケート部の部長・監督・部員らと来賓の皆さん

弓道部は、男子が全日本学生弓道選手権で初優勝を挙げた。次期主将の川上航生(経営3・金井高)は、「高い実力を持った新入生が入部したことで、チームの競争意識が高まり、躍進を遂げることができた」と振り返った。「新年度も主力がそろったまま試合に臨め

るため、期待を裏切らないよう頑張りたい」と展望を語った。スピードスケート部は、日本学生氷上競技選手権大会で17回目の総合優勝を果たした。また、北京五輪の500mで銅メダルを獲得し、最優秀選手賞に選ばれた森重航(経営3・山形中央高)は、「高き目標を掲げ、個人での活躍も目立った。主将の堀川大地(経営4・白樺学園高)は「目

標としていたインカレ優勝を果たし、最優秀団体に選ばれたのでうれし」と語る。また、「専大の選手層は厚いので、部内で活発に競い合っ、もっと日本代表に選ばれるような選手が出てきてほしい」と後輩たちの活躍に期待を寄せた。今季、記憶にも記録にも残る活躍を見せた専大体育会。来年度もさらなる活躍を見せてほしい。(山縣龍人・法2)

受賞団体・選手

- 学生の敬称略。カッコ内は部名。★は新人賞、●は校友会学生奨励賞の受賞者。
- 【最優秀団体賞】
 - ▽弓道部 ●
 - ▽スピードスケート部 ●
 - 【優秀団体賞】
 - ▽準硬式野球部
 - ▽水泳部(水球)
 - ▽卓球部(女子)
 - ▽フエンス部(男子)
 - ▽フエンス部(女子)
 - ▽レスリング部
 - 【敢闘団体賞】
 - ▽サッカー部
 - ▽バスケットボール部(男子)
 - ▽ローラースケート部
 - 【最優秀選手賞】
 - ▽森重航 ●(スピードスケート)
 - 【最優秀新人賞・優秀選手賞】
 - ▽西田衛人 ●(レスリング)
 - 【優秀選手賞】
 - ▽堀川翼 ●▽野々村太陽 ●
 - ▽菊池健太 ●▽谷垣優斗 ●
 - 【特別賞(体育会OB・OG会賞)】
 - ▽八木さくら▽福田麻尋(以上アーチェリー)▽中條海風(少林寺拳法)▽齊藤亜未▽井下逸平(以上水泳・競泳)▽岩佐理央▽堀川大地▽原純夢(以上スピードスケート)▽福田翔也(相撲)▽木村香純▽出澤杏佳★(以上卓球)▽野崎由之▽山本翔太▽キング開▽ケイタ・シェイクア▽パカー(以上バスケットボール)▽丸目哲郎▽吉永信太郎▽金子将大▽木村海騎▽伊藤由信▽内田貴斗▽岡本景虎▽川原大夢▽徳力貴太▽曾根敬次郎▽小林奏音(以上レスリング)▽加藤瑠央▽中川輝人▽河田幸介▽伊佐聖也▽田村有▽山崎亜優▽高秋嬉ら▽高秋紗ら(以上ローラースケート)
 - 【敢闘選手賞】
 - ▽諸橋愛奈(ゴルフ)▽前李秀明(柔道)▽武内公佑▽高野良輔▽大平裕人(以上準硬式野球)▽米山ツヤ
 - 【特別賞(体育会OB・OG会賞)】
 - ▽特別賞(体育会OB・OG会賞)▽弓道部▽準硬式野球部▽森重航▽原田周大
 - 【功労賞】
 - ▽田中稔氏(アーチェリー部部長)
 - ▽前嶋孝氏(スピードスケート部監督)
 - ▽佐藤雅幸氏(テニス部女子監督・顧問)
 - 【学生功労賞】
 - ▽清水大希体育会本部委員長▽陸上競技▽三浦隆大(同副委員長)▽陸上競技▽遠藤大空同広報部長▽剣道▽山下佳帆同情報局長▽前編集長▽西森颯▽田崎星皓(以上弓道)▽比留川大斗(剣道)▽小柳あひ花▽鴨田知昇(以上準硬式野球)▽千葉雅也(卓球)▽谷嶋瑞希(バスケットボール)▽木村海騎(レスリング)
 - 【感謝状】
 - ▽学生自治会▽全学応援団▽白岩物産株式会社

専大スポーツ
No. 427
[専大スポーツ] https://www.senshu-u.ac.jp/sports/

専大スポーツ 編集部 公式 WEB
Twitter @sensuponow
Instagram sensuponow

次世代担う2人



1500m 三井 晃太 マスタート 谷垣 優斗

最優秀選手賞

森重 航 スピードスケート部



専大部員のオンラインインタビューに心える森重 3月9日

日本人史上2人目の33秒台、ワールドカップ総合3位、そして北京冬季五輪銅メダル獲得……。スピードスケートの男子500mで今シーズン、圧倒的な活躍を見せた森重航が2020年度に続き、2年連続で体育会表彰で最優秀選手賞を受賞した。

現役専大生の五輪メダル獲得は実に28年ぶりの快挙となった。森重は「今までの大会とは環境も注目度も全く違うものだったの、プレッシャーはあったが、結果的には持っている力を出し切ることができた」とメダル獲得を喜ぶ一方、「目標タイムには届かず、思い通りの形ではなかった。次はもっと自信を持てる形でメダルを取りたい」とさらなる飛躍を誓った。

また、16位に終わった1000mについても、「日本は1000mで勝てていないので、こちらでも結果を残し、両目で戦える選手になりたい」と新たな目標を掲げる。

「スピードスケートはあまり注目されてこなかったスポーツ。メダル獲得をきっかけに興味を持ってくれた人たちは、これからも自分たちの活躍を見つけてほしい」と話した。(山縣)

世界大学スピードスケート選手権大会

世界大学スピードスケート選手権大会が3月2日から5日まで、米国・レイクプラシッドで行われ、三井晃太(経営1・東京都立大学塩尻高)が1500mで、谷垣優斗(経営1・白樺学園高)がマスタートともに金メダルを獲得した。次世代を担う2人が大学世界一の座を勝ち取った。

三井は1分54秒88で1位となった1500mは、500mと1000mで2位、マスタートでも3位と、出場した全種目でメダルを獲得する安定したパフォーマンスを発揮した。

マスタート決勝は、16人が約6400mを一斉に滑る。谷垣はレース終盤にスパートをかけると、後続を振り切り、9分23秒55でゴールした。

今シーズンは、谷垣が日本学生氷上競技選手権大会の長距離(5000m、1万m)で2位となり、チームの総合優勝に貢献するなど、両者とも

新たに各部を背負って立つ新主将、主務たちがリーダーシップを学ぶ第58回リーダーズキャンプ(体育会本部主催)が2月24日、オンラインで開催された。

今回はサッカー部コーチの増田功作さん(前横浜FCヘッドコーチ)による講演会が行われた。増田さんは、どのように行動することが「チームを成長させる」リーダーの役割につながるかを分かりやすく説明。豊富な経験をもとに、結果の出る組織の構造や、リーダーに必要なポイントを解説した。(山縣)

サッカー部・増田コーチが講演
第58回リーダーズキャンプ